

インターナショナル・オリーブ・カウンシル(IOC)、
日本植物油協会主催「日本のオリーブオイルの今後を考える」
シンポジウム・懇親会を後援

日本におけるオリーブオイルの品質規格の必要性について意見交換

2018年2月19日 於:如水会館

オリーブに関する国際協定に基づく政府間機関であるインターナショナル・オリーブ・カウンシル(International Olive Council / 以下 IOC、本部:スペイン、マドリード)は、2月19日(月)、東京都千代田区の如水会館で開催された、一般社団法人日本植物油協会主催のシンポジウム「日本のオリーブオイルの今後を考える」とその懇親会を後援しました。

シンポジウムは日本におけるオリーブオイルの品質規格の必要性がテーマとなっており、IOC からは、プロモーションユニット責任者のエンデル・グンドゥスが来日し、「オリーブオイルの世界情勢」についての特別講演を行いました。

また、基調講演として、日本植物油協会の齊藤昭専務理事が、「オリーブオイルの内外情勢と品質などに関わる論点」、香川県小豆オリーブ研究所主席研究員、香川県オリーブオイル官能評価パネルリーダーの柴田英明氏が「香川県におけるオリーブオイル生産と官能評価等の取り組み」について講演を行いました。

シンポジウムには、IOC 加盟国の在日大使館から、大使や一等書記官らも参加し、日本の生産者、輸入業者、メーカーの関係者たちと品質規格の必要性について活発な意見交換を行いました。

日本のメーカーからは、「日本の消費者は以前は価格で選んでいたが、今は品質を重視するようになってきている。日本の消費者は品質に対して、他の国よりも厳しい。日本植物油協会でも、IOC の基準をもとに日本におけるオリーブオイルの規格作りを進めている。IOC には、日本での IOC 認定ラボの早期設置に協力して欲しい」などの意見が出ました。

IOC のグンドゥスは、「我々は日本政府に、IOC 加盟国になっていただけるよう様々なルートで働きかけている。これからも、輸入業者の皆様、メーカーの皆様、日本の生産者の皆様、在日大使館の皆様方とこういう機会をもって、協同で動きたい。日本の消費者により良い品質のオリーブオイルを提供できるよう、今後とも協力をお願いしたい」と述べました。



(シンポジウムの様子)



(講演をするエンデル・グンドゥス)

【写真のダウンロードはこちらから】

<https://we.tl/zoNsk4P8Su> (2018年3月6日まで有効)

●国際ナショナル・オリーブ・カウンシル(International Olive Council)とは

IOC は、スペイン・マドリードに本部をおく、オリーブオイルとテーブルオリーブの国際協定に基づく政府間機関です。1959年に、オリーブ栽培と生産の保護と開発のため国際連合によって、国際オリーブオイル協会(International Olive Oil Council/IOOC)として設立。その後、2006年に国際ナショナル・オリーブ・カウンシル(IOC)に改名されました。

IOC は、オリーブ業界における唯一の世界的な機関として、加盟国(世界のオリーブ生産量の97%を占める生産国を含む)と協議をしながら、オリーブ業界発展のための政策作りを行っています。また、持続可能なオリーブ栽培の発展にも貢献しています。

お問い合わせ先

Believe in Olive Oil 事務局 担当:ロゼル、根本、佐藤

エム・エム・エス・コミュニケーションズ株式会社 MSL Japan 内

Tel: 03-5719-8931 / Fax: 03-5719-8919 Mail: olive@msljapan.com